



第7次NACCS基本仕様の概要 (第5回)

2020年9月

輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

- I 第7次NACCS更改の開発コンセプトおよび検討体制等について
- II システムの安定稼働（システム構成等）
- III システム処理方式関係
- IV 業務仕様
- V 最新技術の導入・各種デジタルプラットフォーム（貿易情報基盤）との連携
- VI 第7次NACCSへのシステム移行
- VII 開発スケジュール

V 最新技術の導入・各種デジタルプラットフォーム
(貿易情報基盤) との連携

第7次NACCS更改に際しては、利便性や経済性の向上のために最新技術の導入の是非を検討していくが、NACCSはミッションクリティカルなシステムでもあることから、安定稼働に影響を及ぼさないという前提に立ったうえで、それらの技術動向を把握し、導入について慎重に判断していく。

NACCSで考えられる最新技術の活用案・効果（例示）

技術名	NACCSで考えられる活用案・効果	留意点等	NACCSでの導入の可能性
AI	<ul style="list-style-type: none"> 入力補助機能、誤入力防止機能 誤送信抑制機能 ヘルプデスクサポート（チャットボット等） 	チャットボットなどのAIを活用する場合には、出来る限り多くの学習用データが必要となる。	○
RPA	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの企業における作業手順をRPAに記憶されることになるため、基本的には各社での導入検討が自然。 	利用者各社にて自社に最適な製品を検討する必要がある。また、作業手順や作業画面に変更が発生した場合には、各社で適宜メンテナンスが必要となる。	—
IoT	<ul style="list-style-type: none"> 現時点でのNACCSにおける情報通信プロセスは、デジタルデータのやり取りに止まる。 	現在のNACCSがカバーする業務範囲では、モノを経由するプロセスが無い。	—
クラウドサービス	<ul style="list-style-type: none"> サーバ等の運用・保守管理業務軽減 システム開発・導入期間の短縮 柔軟なシステム環境・構成の変更 	特に不特定多数の顧客へサービスを提供するパブリッククラウドについては、クラウド事業者の契約条件とNACCSの要件が合致するかを慎重に確認する必要がある。	○
ブロックチェーン	<ul style="list-style-type: none"> データ保存に関する堅牢性の向上 	現時点では、ブロックチェーンで処理出来る時間当たりの取引数が少ないため、採用した場合にシステムとしての性能が劣化する懸念がある。	—
API連携	<ul style="list-style-type: none"> 自社システムとNACCSのシステム連携 他プラットフォームとのシステム連携 ※現行でもNACCS EDIによるAPI連携を行っている。 	API公開・連携に関するセキュリティ対策の整備等。	○
ビッグデータ蓄積・解析	<ul style="list-style-type: none"> 統計データの蓄積 	各種データの用途や公開範囲について、利用者を含め関係各所に確認した上で、サービス内容を検討する必要がある。また、稼働中の第6次NACCSでは、原則として手続き終了後のデータ蓄積は行っていないため、その仕組みから改めて検討する必要がある。	△

※左記の留意点に加え、下記にも留意する。

・RPA：利用者側でのRPA活用を考慮し、キーボード操作で全て入力可能にするなど、RPAで処理しやすい画面仕様の開発を検討する。

・API連携：netNACCSの仕様公開も含め、他の情報連携基盤との連携が利用者にとって望ましいと判断された場合、速やかかつ容易に接続できる仕様を検討する。

・AI/ビッグデータ蓄積・解析：第7次NACCS運用開始時点でAIの機械学習やデータ解析に十分なデータが利用できるよう、事前のデータ蓄積について検討する。

第7次NACCSにおける各種デジタルプラットフォーム（貿易情報基盤）との連携については、接続した場合のNACCSの利便性・経済性の向上の有無や日本政府の今後の政策等を踏まえ、その可能性について引き続き検討を行っていく。

各種デジタルプラットフォーム（例示）

項番	国・地域	プロジェクト	主導団体	概要	開始予定時期
1	日本	港湾関連データ連携基盤	内閣官房IT総合戦略室 国土交通省港湾局	港湾関連データを集約し、主に民間の電子的情報の共有を目指す。	2020年末までに稼働予定
2	日本	貿易手続データ連携システム	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）	ブロックチェーン技術を活用し、貨物や輸出手続きに関するデータを管理・共有することで、手続き業務に関わる事業者の生産性向上と輸出リードタイム短縮を目指す。	実証実験を、2019年2月に、北米およびアジア向けコンテナ輸出を対象に実施した。
3	日本	貿易情報連携基盤（TradeWaltz）	NTTデータ㈱、銀行・保険・総物流・輸出入者等の各業界を代表する10数社	ブロックチェーン技術を活用した情報連携基盤を構築し、金融分野まで含めた貿易手続きの効率化、迅速化、利便性の向上を目指す。	2019年度中の社会実装を目指す。
4	欧州、米国、他	TradeLens	Maersk Line、IBM	ブロックチェーン技術を活用したデジタルオープンプラットフォームによりコンテナ貨物等のステータス情報を関係者間で共有。諸外国のターミナルや港湾、船会社、税関等が参加している。	2018年8月運用開始済
5	アジア、欧州、他	GSBN（Global Shipping Business Network）	COSCO、CMA-CGM等の海外大手船社、ターミナルオペレーター 約10社	複数の大手船社やターミナルオペレーターが参加し、他のプラットフォームとの接続・連携を打ち出すことで業界標準を目指す。	未定

VI 第7次NACCSへのシステム移行

1. 移行について

- 第7次NACCSでは、2020年6月に貿易管理サブシステムが統合され、移行時には関係省庁システムが全て統合された、より巨大なシステムとなっていることから、大規模かつ慎重な作業が要求される。

2. 移行方針

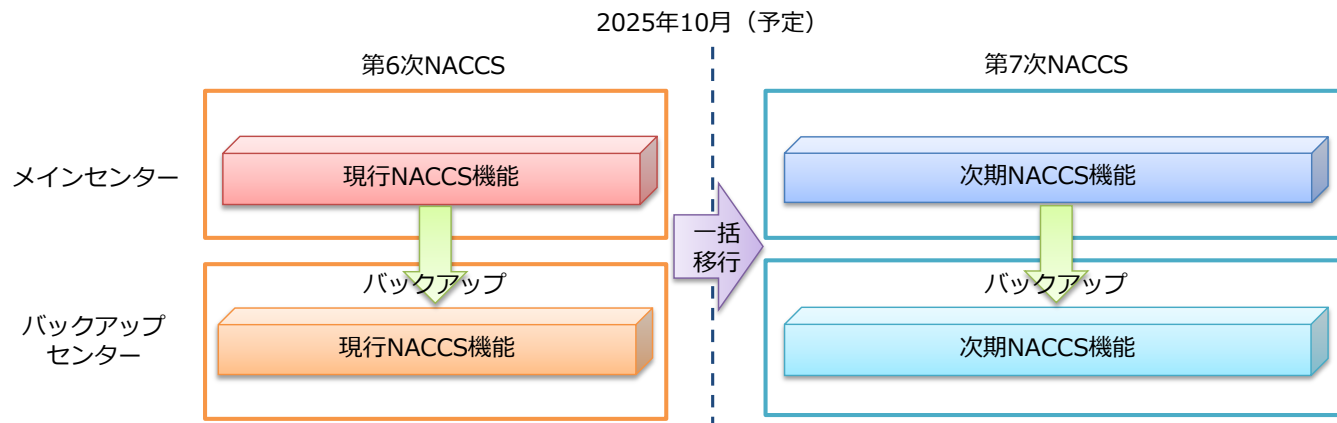
- 第7次NACCSへの切り替えについては以下の方針で行うこととし、具体的なシステム移行方法については、詳細仕様において検討する。

【方針1】一括移行を目指す。

【方針2】第6次NACCS更改時の移行時間（5時間45分）および中年度更改時の移行時間を目安とし、確実な移行を目指す。

3. 移行イメージ

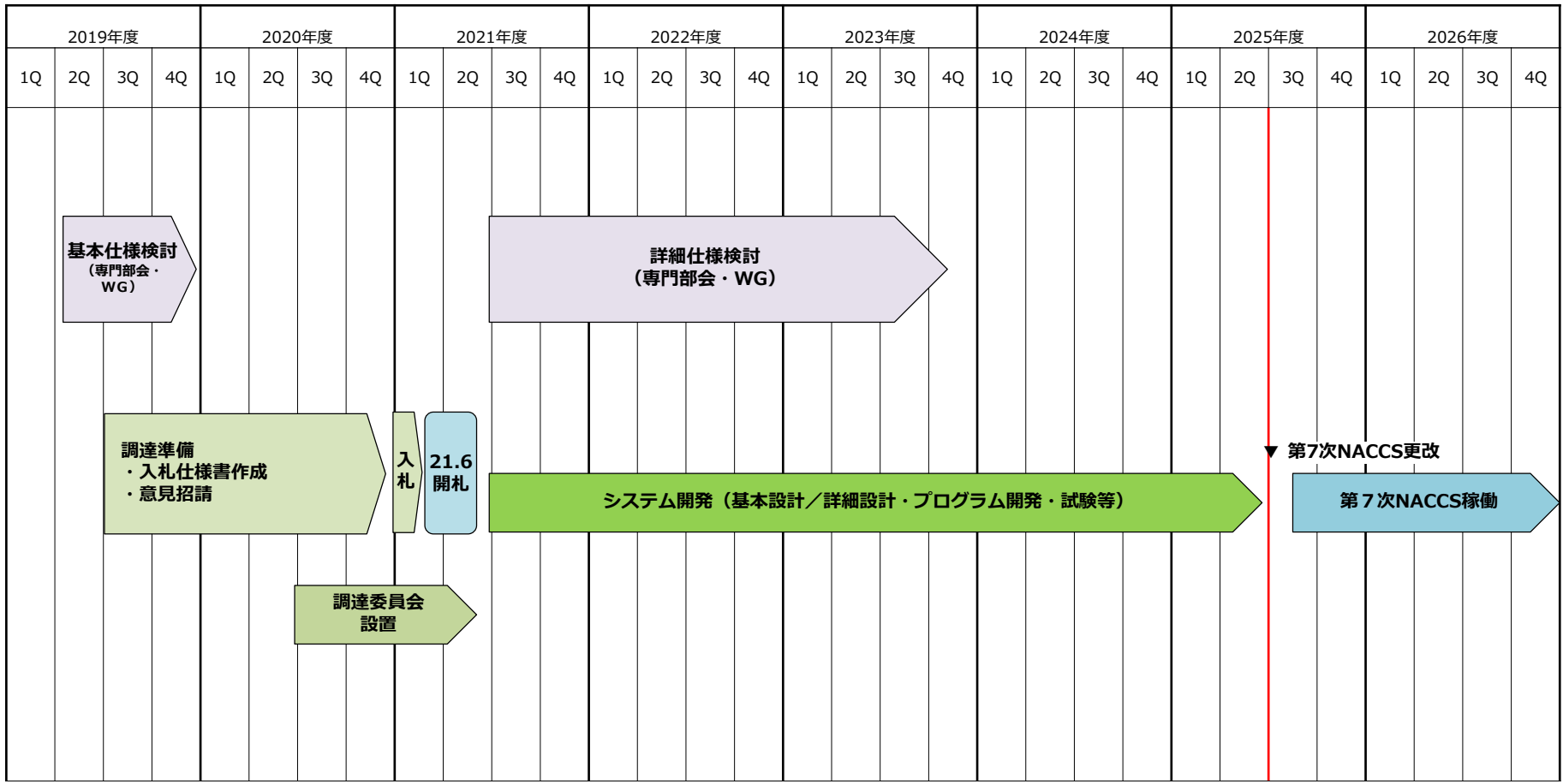
- 第7次NACCS更改の移行イメージは次のとおりとなる。



Ⅶ 開発スケジュール

VII 開発スケジュール（今後の予定）

第7次NACCS更改に係る開発スケジュールは下表のとおりとする。
 なお、詳細仕様については、各業務仕様の検討が終了した時点で、段階的に確定していくことも検討する。



第7次NACCS基本仕様に関する
ご意見・ご質問等につきましては、
下記メールアドレス宛にご連絡願います。



setsumeikai-v7@naccs.jp

第7次NACCS基本仕様に関する
「更改専門部会・WG」における議論の内容や
「基本仕様書」本文につきましては、
以下NACCS HPに掲載しておりますので、
是非一度ご参照下さい。



https://www.naccs.jp/archives/7g_naccs/index.html

